

岡豊風日

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第100号 平成30年(2018)1月1日

「岡豊風日」は、企画展の内容紹介をはじめ館の活動報告やこれからの催し案内などを掲載する当館の広報紙で、全8頁、年4回の発行です。当館が開館した平成3年(1991)の9月1日に創刊され、今号で100号を迎えることになりました。これも皆様方のご愛顧の賜物です。まことにありがとうございます。

100号に至る26年間には、いくつかの変遷もありました。大きな変化は24号からB5版がA4版に一回り大きくなったこと。これは公文書のサイズ変更に対応しています。そして最初は白黒だったのが48号からカラーカラーになったことです。カラー化にともない、それまで表紙は館内外の方々のエッセーでしたが、「資料見聞」と題した資料紹介に切り替えました。



創刊号の表紙。初代吉村館長の文章

「岡豊風日」100号達成!

命名と題字は、吉村淑甫初代館長によるものでした。1号の編集後記には「風日」には、漠然とした「時の流れ」といった語意が含まれている。どこことなくのどかな印象を与える言葉であるが、開館初年度の我々の毎日は繁務に追われ、「風日」とは程遠い所にある。せめて、気持だけでも「風日」を大切にしていきたいと思う」と記されています。26年後の現在では、業務内容は数倍に増え、開館の頃こそが「風日」の日々だったと思わざるをえませんが、やはり心の「風日」を失わずに、館と「岡豊風日」を魅力的なものにしていきたいと思えます。



89号。大胆なレイアウトで迫る。

→左から48号、50号、63号表紙。
カラー化にともなって、写真を大きく出すようになった。



志国高知 幕末維新博覧会 企画展 第5弾
 企画展 堺事件 — 150年の時を経て —
 のご案内
 平成30年1月20日(土) ~ 3月25日(日)



分靈を祀ったことに由来します。

初詣や、運勢を占いたいとき、神社でおみくじを引くことはよくありますよね。また、仲間同士で何かの当番や順番を決めたりする時にもクジ引きという手段は使われます。しかし、当りクジを引いたら命を取られるとなったら話は別。誰もそんなクジ引きはしたくありません。

今からおよそ150年前。実際に命をかけたクジ引きが行われたことを皆さんはご存じでしょうか。明治元年(1868)2月22日、大坂の土佐稲荷神社境内において、「堺事件」の責任をとって切腹する人間を決めるクジ引きが行われました。上の絵図は、クジに当たった横田辰五郎の記憶に基づく鳥瞰図です。

画面右側には鳥居付近で警備する通称「御預り固人」たちがいます。彼等は堺事件の当事者となった元土佐藩六番・八番隊士を特命により監視、拘束していた人びとです。そして、その近くには身を清めるための手洗い場があり、両隊士たちが所在なげに佇んでいます。彼等はこれから運命をかけたクジ引きに挑むのです。心情を想像するとあまりに惨く、息苦しくなります。よく見ると武士なのに大事なものがありません。お分かりのとおり二本差しを取り上げられています。

この絵図ではすでにクジ引きは始まっていて、足軽などの下級武士の行動を監視する下横目2人が名簿順に名前を呼び上げ、クジ引きをしたあと、その結果を大目付の小南五郎右衛門たちが確認していたことが分かります。当りクジを引いた者はその場に残り、「白鬮」

(はずれクジ)を引いた者は終わるまでエンマ堂の前で待たされたようです。今まさに運命のクジを引いている人物こそ辰五郎自身なのかもしれません。

クジ引きは、両隊の隊長と小頭2人を除く16人を、発砲を自供した25人の中から選ぶために行われました。辰五郎はクジに当りましたが、切腹を免れた生き残り組のうちの1人です。事件後、名誉回復のため、そして真実を正確に後世に伝えるため本史料(「堺表土佐藩士攘夷記」)を執筆したのでしよう。



現在の土佐稲荷神社

今回の企画展では、鳥羽・伏見の戦い後の混乱による堺の治安維持のため派遣されていた土佐藩兵が、上陸してきたフランス軍水兵を銃撃した、いわゆる「堺事件」を取り上げます。



堺土佐藩士攘夷記(部分) 宇賀四郎氏蔵 ※土佐稲荷神社…享保2年(1717)6代土佐藩主・山内豊隆が大坂蔵屋敷内に京都伏見稲荷大社の

この事件では、フランス側に11人の死者が出たことから一気に国際問題に発展。慌てた新政府は土佐藩主の謝罪と賠償金15万ドルの支払い、さらに発砲した土佐藩兵を処罰することで沈静化を図りました。

運命のクジ引きを経て、切腹することになった20人の土佐藩士。彼等の多くは名も無い足軽でした。また、銃撃されたフランス兵の中には、徴集された青年も多く含まれていました。150年の時を経たからこそ、冷静かつ公正な視点でこの事件をご紹介しますと思えます。開国時の日本を取り巻く国際情勢、そして様々なかたちで本事件に関わった人びとの証言なども織り交ぜながら、歴史の闇に葬られた人びとの声無き声に耳を傾けます。

(野本)

史跡めぐりのご案内 平成30年 2月10日(土)~11日(日)

本企画展では、堺事件の足跡をたどるツアーを開催予定!!

土佐藩士が切腹した妙國寺だけでなく、土佐藩士11人が眠る宝珠院や、フランス水兵の眠る神戸市立外国人墓地など、普段は公開されていない場所も見学します。

また、世界遺産登録へと期待が高まっている仁徳天皇陵古墳(大仙陵古墳・大



外国人墓地(神戸市)



宝珠院(堺市)

仙古墳)など、堺市内の名所も訪問予定。全見学地において、学芸員や現地ガイドの解説付き。明治維新の激動に散った土佐藩士の足跡を、ぜひこの機会にご覧下さい。

なお、ツアーに関する詳細は当館までお問い合わせ下さい。

堺市で開催される「堺事件」関連企画のご案内 「堺事件 150年」

平成30年2月3日(土)~同25日(日) 堺市立中央図書館1階ロビー

堺事件関連の貴重図書20~30点と写真パネル約20点ほどで構成。秘蔵の「堺妙國寺十一烈士銘々図伝」も初公開されます。

※記念講演会「土佐藩士・横田辰五郎のみた堺事件」高知県立歴史民俗資料館 学芸課長 野本 亮 平成30年2月4日(日) 午後2時~4時

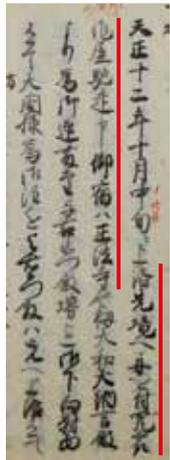


土佐と「堺」のふかいご縁

長宗我部元親と南海路、そして堺

上方(主に兵庫)から九州北部を目指す遣明貿易船(勘合船)の多くは中国海路(瀬戸内海航路)を使用しました。一方、堺から紀伊・淡路・阿波・土佐・伊予・九州へと向かう通称「南海路」と呼ばれる航路もありました。このルートは、応仁・文明の乱以降、瀬戸内海ルートを使用できなくなった管領・細川氏派遣の船舶にとって、極めて重要な航路であり、入港可能な土佐沿岸の港もその存在価値を高めました。土佐西部に勢力を張った土佐一条氏は、この南海路を航行する船舶、特に細川氏や本願寺と結んだ堺商人らが仕立てた船団に様々な便宜を図っていたことが知られています。

人(安芸氏や津野氏)らが個別に持っていた上方との人脈を一手に握り、外交・軍事面で活用しました。新兵器であった鉄砲と弾薬をスムーズに調達するため、堺に協力者を置いていたのもその一例です。『元親記』には、小牧・長久手陣において、徳川家康と密かに結んでいた元親が「上ノ坊」という者を堺に派遣し、鉄砲の調達をさせたことが確認できます。また、天正13年、秀吉に降伏した元親と家臣一行が上坂のため最初に上陸したのは堺でしたが、問丸・実喰屋四郎右衛門を待機させ、その案内で正法寺に宿泊していることも分かります。かなり以前から堺を上方の拠点として重要視していた様子がかがえるのです。余談ですが、この時元親一行は今井宗久の邸宅に宿泊することになっていました。堺の名だたる茶人のなかでも当初宗久との関係を深めていたことは注目されます。



『元親記』(部分)

堺に学べ！海を渡る土佐の鍛冶

長い戦乱の時代が終わり、徳川幕府による安定した時代が到来しました。その地理的・経済的な重要性から天下人らによって翻弄され続けた堺でしたが、天領となり堺奉行の支配のもとで、



堺筒 銘 摂州住山田佐七作 内からくり 兜の象嵌 松木幾八コレクション



堺筒 銘 摂州住山田佐七作 外からくり 昇龍象嵌 松木幾八コレクション

豊かな町人文化が華開きます。もとより職人の町でもあった堺には、鉄砲の製作に携わる鉄砲鍛冶が多くいました。島原の乱を最後に戦乱が収まると、次第に生産量は頭打ちになっていきます。しかし、全国の各大家ともに「武家の備え」として一定数の銃砲を必要としたので、需要がなくなることはありませんでした。堺筒は店頭売りを重視していたため、華やかな飾金具や象嵌を施しているのが特徴の一つです。こうした細やかな細工が職人の技の水準を維持することにつながっていたともいえるでしょう。

ところで各地の大名家には砲術師という銃砲の専門家が召し抱えられていました。彼等のもとで修行を積んだ武士たちは、武芸として砲術の腕を磨き、好みに応じた鉄砲を堺等の鉄砲鍛冶に注文していたようです。例えば堺の榎並勘左衛門は全国各地の大名十六家への出入りが許されていますが、そのうちの一つは土佐藩山内家でした。そのため土佐国内には堺製の鉄砲がかなり流入していたようです。また、堺で修行を積んだ鉄砲鍛冶が土佐に帰国して製作した土州筒も、ある意味堺系の鉄砲といえますので、その影響は計り知れません。

鉄砲に限らず土佐と堺の交流の歴史は濃密です。(野本)

鉄職人、佐助・平川氏と住吉屋

庭の手入れのお好きなお宅には、ひよつとすると佐助の植木鉢があるかもしれません。



堺区の北清水町に打刃物のお店があります。創業慶応3年の「佐助」です。この佐助の屋号を受け継ぐ平川氏の先祖は、江戸時代「住吉屋」という商人で、家伝によれば、元禄の頃には堺桜之町に住み、廻船問屋、両替商を営むかたわら、鉄砲製作も行っていたそうです。

幕末になり、世情を鋭く読んだ当主は、鉄砲製作の技術を生かした鉄造りを始めました。現当主の康弘氏は五代目であり、伝統工芸士にも選ばれた名工です。

現在の工房兼住居は、大正時代に建てられたもので、阪神淡路大震災の時もびくともしなかつたそうです。初めて訪問した時、この趣のある建物に見とれてしまいました。それ以上に驚いたのが応接間の上部に二列に並べられた提灯箱でした。



「あれは何ですか？」とご主人に尋ねると、「あれは、幕末に土佐山内家に大名貸しをしていたところ、返済できなくなった詫びに、山内容堂からもらったものだと聞いています」とのこと。住吉屋が土佐藩の御用商人であったため、堺で様々な御用を務める時に使用していたものを引き継いだものとみられます。佐助には、堺事件で土佐藩士が切腹した時に使用したという短刀と脇差も現存しており、提灯とともに今回公開されます。(野本)

異人さん人形の世界

郷土玩具は、土や木、紙など身近な素材によって日本各地で作られてきました。そのため、日本的なものばかりかと思いきや、意外にも異人さんの人形があちこちで作られています。

例えば、出島のあった長崎県の「古賀人形」には、ふんわり広がったスカート姿で息子の手を引く「西洋婦人」などがみられます。西洋婦人は出島オランダ商館長ブロンホフ夫人で日本にはじめて来た西洋人女性とのことです。兵庫県の「神戸人形」は、スイカを割って食べたり、酒を注いで呑んだりするからくり玩具です。全体を黒く、スイカや杯を赤く塗っていますが、一説には、黒人船員をモデルにしたために人形が黒く塗られたそうです。

南蛮貿易で栄えた歴史のある大阪府堺市の「南蛮雛」は、南蛮帽子の男雛と水玉模様衣装で茶髪の女雛が、土雛界に異彩を放っています。

写真は「横浜開港人形」で、開港当時の風俗を表した昭和2年生まれの人形です。そのモチーフは、犬もかわいイギリス兵の「赤隊」、日本に開国を迫り、嘉永7年(1854)に横浜へ上陸した「ペリー提督」、海洋堂×

中川政七商店の「日本全国まめ郷土玩具蒐集」ガチャに登場し、その愛らしさに新たなファンを魅了した「新貴婦人」、ひげ面セーラー服の「水兵」などです。

横浜は、幕末から明治維新にかけて外国人が居留して交易が行われ、港にはフランス波止場やイギリス波止場があったという土地柄です。

各地に伝わる異人さん人形には異国への眼差しとともに、異国情緒を醸し出して港町の個性を表現しようという人びとの思いが感じられます。(中村)



横浜開港人形(神奈川県)

まぼろしの講座、ふたたび

平成29年9月18日、企画展「大政奉還を「象」つた男 後藤象二郎」は好評のなか、幕を閉じました。期間中は関連企画として公演「大石神影流剣術演武」などを開催しました。そのほか、「土佐藩の職制」として二回の講座を予定していました。1回目の「土佐藩士の出世」は無事に開催できましたが、2回目の「土佐藩における仕置役とその職掌」は台風18号の影響で中止となりました。当初は、そのまま中止となる予定でしたが、「延期してほしい」「補習はないのか」といった声に応え、平成30年1月2日の「れきみんのお正月」において、改めて開催する運びとなりました。そこで、講座の内容を簡単に紹介します。

土佐藩の仕置役は「参政」とも呼ばれ、吉田東洋や後藤象二郎が就任したことで知られる役職です。そのためか、彼らは土佐藩の政治の中枢に位置し、権力を振るったと説明されることもしばしばあります。東洋や象二郎が権力を持っていたと仮定するならば、その要因は仕置役にあるのか、そもそも彼らは権力を持っていたのかという素朴な疑問を説明することが本講座の目的です。といいますのも、幕末の仕置役は定員が2名であり、1名

だけが職権を専横できたのか疑問が生じるためです。さらに、仕置役は東洋や象二郎ら「馬廻」の家の藩士が就くことのできる最高職には間違いありませんが、その上には家老が就任する「奉行職」という役職が存在します。この「奉行職」を無視したまま政治をすることはなかなか難しかったようです。例えば、安政5年（1858）に仕置役に復職した東洋が記した日記によると、業務を行う際に、「奉行職」らの決裁を仰ぐ必要があったことがわかります。この日記は数年分が残っておりませんが、そこからは中間管理職として奮闘する等身大の東洋の姿を垣間見ることが出来ます。

それでは、東洋は権力を持っていたのか!? この点については講座をお聞きください。楽しみということ、乞うご期待ください。（石畑）



「土佐藩士の出世」講座風景

特別展 こぼれ話

昨年10月から11月にかけて開催した特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」は、高知県内外の多くのお客様にご覧いただき、無事閉幕しました。ご来館いただいた皆様、本当にありがとうございました。

禅宗とはそもそも、坐禅を重要な修行として考える宗派の総称であり、日本では、臨済宗、曹洞宗、黄檗宗の大きく3つに分けることができます。この展覧会は、京都をはじめ県内外の臨済宗寺院で

所蔵される作品を中心に構成しました。これは、臨済宗が生まれた中国ですでに、師匠から弟子に教えが伝わった証明として、師匠の肖像画などを授けることが一般化しており、その文化を取り入れた日本の臨済宗寺院において、今日われわれが美術作品と呼ぶ肖像画や墨蹟、袈裟など多彩な伝法の証が生まれたことに由来しています。一方で、このような風習について、日本に曹洞宗を伝えた道元は、批判的であったと考えられています。いずれにせよ、同じく鎌倉時代に伝わった臨済宗と曹洞宗は、日本文化と密接にかかわり合いながら発展してきました。

一方の黄檗宗はどうでしょうか。黄檗宗は、江戸時代に隠元禪師の来日によつ

てもたらされました。教義や儀礼などは臨済宗と共通する部分が多いですが、県内に黄檗宗寺院はないので、本県ではなじみの薄い宗派といえるかもしれません。黄檗宗は、中国的な要素が非常に強いのが特徴です。たとえば、黄檗宗の精進料理は普茶料理と呼ばれ、大皿に盛った料理を大人数でとりわけます。ごま油など植物性の油を使った濃厚な味も特徴のひとつです。

また、お経を読むときには「唐音」という特別な読み方をします。これは、漢字の音読みの一種で、例えば、「南無阿弥陀仏」を「ナムアマダブツ」と読むのは「呉音」であり、唐音では「ナムオミトフ」と読みます。さらに、声明（仏典に節をつけた仏教音楽）も一度聞くと忘れられない独特なリズムを奏でます。加えて、お寺も絢爛豪華な装飾に彩られており、私たちのイメージする禅とは少し違った雰囲気です。「禅はこうだ」という先入観を捨てることこそ、禅に触れるスタートになるのかもしれない。（那須）



岡豊城跡だより

●岡豊山の魅力満載のフォトコン!

今年も岡豊山フォトコンテストを実施し、数多くの素晴らしい作品のご応募をいただきました。その中から見事に最優秀賞に選ばれたのは、岡村 雄策さん(高知市)の「落陽」です。(下写真)

応募作品は、1月14日(日)まで、館内1階のフリースペースと2階のエントランスで展示しています。力作をぜひご覧ください。

★「みんなのお気に入り賞」を選ぼう!

今回、新たに人気投票による賞を設けました。会場で「いいね!」と思った作品に投票願います。締切:1月10日(水)



●長宗我部、九州と本州に出陣!

約440年もの時を経て、長宗我部が再び県外に打って出ました。今回は戦ではありません。大分市の「大野川合戦まつり」(11/11)と、横浜市で開催された「お城EXPO2017」(12/22~24)へのブース出展です。特に後者のお城EXPOへは、岡豊城が、今年4月に公益財団法人 日本城郭協会による続日本100名城に選ばれたことから、今回初めて出展したものです。会場では、居並ぶ全国の名城に隠することなく、ポスターとチラシで岡豊城を堂々アピールしました。

来場者の多くが岡豊城跡を訪れてくださるよう期待しています。



●台風21号襲来!岡豊城危うし?

10月22日に本県に最接近した超大型の台風21号は、その強風で当館及び岡豊山に大きな被害をもたらしました。特に岡豊山では、櫓は無事でしたが、残念ながら多くの桜や楠の木が倒れてしまいました。

でも、幾多の困難を乗り越えてきた岡豊山はへこたれません!



れきみんニュース

れきみんのお正月

毎年、たくさんのお客様にご好評いただいている『れきみんのお正月』。平成30年は、例年よりもさらにパワーアップして、1月2日と3日の2日間開催することが決定いたしました。(※8頁をご覧ください)。

下の写真は平成29年1月2日に開催された『れきみんのお正月』の様子です。毎年恒例となった運試し福引にコマ回し名人によるコマ回し教室&コマ回しショー。また、新たな試みとして石臼で行う抹茶挽き体験などを開催し、お客様の笑い声に包まれた1年のスタートにふさわしい明るく楽しい1日となりました。年のはじめを、歴史館で過ごしてみませんか?皆様のご来館をお待ちしております。(式地)



新スタンプ登場

ご来館記念のスタンプに10月29日から新作が加わりました。

右のスタンプは長宗我部元親の花押です。いわば、元親のサインなので、長宗我部ファンにも喜んでいただけそうなレア感が! 長宗我部展示室をご覧になった記念にピッタリですよ。

左は当館リーフレットの記念スタンプ欄用の日付印です。消しゴムはんこ作家 asakozirushi の女生徒まで、郷土玩具愛にあふれたかわいいデザインです。押印して愛でてくださいね。(中村)

長宗我部元親花押



高知県立
歴史民俗資料館来館記念



志国高知 幕末維新博関連企画第6弾!

企画展

安政地震 幕末を揺るがす

—土佐・阿波の津波碑が語るもの—

平成30年 4月28日(金)～7月1日(日)

幕末の世相に少なからずの影響を及ぼした安政の南海トラフ地震。その地震・津波碑の拓本を阿波と土佐を中心に紹介します。



つくた 熟田峠地藏尊碑拓本
(徳島県海南町)
岡村庄造氏採拓

れきみんのお正月

1月2日(火)		1月3日(水)	
9:00	くじびき	10:00	岡豊城初登城
10:30	コマ回し名人による パフォーマンス	11:00	ガレットデロワの 振る舞い
10:00 ～16:00	いぬをつくろう	13:00	コーナー展 ミュージアムトーク
11:00 ～15:00	抹茶の振る舞い	14:00	安芸高校書道部による 書道パフォーマンス
11:30	コマ回し名人による パフォーマンス	14:30	岡豊城初登城
13:30	コーナー展 ミュージアムトーク	15:30	ガレットデロワの 振る舞い
14:30	講座「土佐藩における 仕置役とその職掌」		

特別展・企画展図録のご案内

- 特別展
今を生きる禅文化—伝播から維新を越えて—
A 4版 171頁 1,500円 (送料 350円)
- 企画展
大政奉還を「象」った男 後藤象二郎
A 4版 93頁 1,000円 (送料 300円)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第100号
平成30年1月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり

観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(特別展・企画展)通常展込 510円
団体(20名以上) 360円
団体(20名以上) 410円

無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展

志国高知 幕末維新博関連企画第5弾!

堺事件—150年の時を経て—

平成30年

1月20日(土)～3月25日(日)



錦絵 箕浦元章(「当世武勇伝」)

「堺事件」とは、明治元年(1868)2月15日、現・大阪府堺市の警備をしていた土佐藩兵が、突如上陸してきたフランス軍水兵を銃撃したことによる一連の事件を指します。本展では、事件の責任をとり切腹した藩士と切腹を免れた藩士たちの関係史料を一堂に展示する他、切腹現場となった妙國寺に現存する遺品が150年ぶりに里帰りします。史上初の展示会に是非ご注目ください。

- 記念講演「堺と土佐—遣明船から堺事件まで—」
平成30年2月17日(土) 14:00～16:00
吉田 豊氏 元堺市博物館学芸員 要予約(定員120名)
- 上方講談「大坂土佐藩邸、生死を決めるくじ引き」
平成30年3月10日(土) 14:00～16:00
旭堂南海氏 上方講談師 要予約(先着100名)

企画展「堺事件」関連企画 コーナー展

谷作七のみた戊辰戦争

平成30年 1月27日(土)～3月31日(土)

戊辰戦争に従軍した谷作七の遺品を一挙公開。作七は野市町中ノ村の郷士で、慶応4年1月13日、迅衝隊二番隊の一員として土佐を出発し各地を転戦しました。「道中日記」や家族あての手紙などから、従軍した一兵士がみた戦争の実態に迫ります。

コーナー展

干支の玩具 戌

平成29年 平成30年
12月5日(火)～1月27日(土)

郷土玩具収集家・山崎茂さんのコレクションを中心に干支の「戌」にちなんだ犬の玩具を展示します。



中野人形(長野県)

ミュージアムトーク ● 予約不要・観覧料要・講師:担当学芸員
1月2日(火) 13:30～14:20/1月3日(水) 13:00～13:50 いずれもうちの25分くらい

コーナー展 おしなさま

平成30年
2月4日(日)～3月14日(水)

山崎茂さんのコレクションから「土雛」をテーマに展示。郷土玩具収集家・城田政治さんの雛人形や大正時代の内裏雛もご紹介します。



古賀人形(長崎県)